

令和3年度 学校評価総括表

奈良県立奈良朱雀高等学校・奈良商工高等学校 定時制課程

教 育 目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成を目指す。 ・ ものづくりとビジネスの実習・演習を通して技術を身に付け、社会に貢献できる生徒の育成を目指す。 				総合評価		
運 営 方 針		「ものづくりとビジネスの出会いを通して人作り」をスローガンに、高等学校普通教育並びに工業科・商業科等に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせて、産業及び文化の進展に貢献し得る豊かな人間性と自立的な態度を育成するとともに、清新な気風に満ちた魅力ある校風の樹立を目指す。						
昨年度の成果と課題		本 年 度 の 重 点 目 標		具 体 的 目 標				
<p>主体的に挨拶をする生徒が多くなり、社会のルールやマナーを遵守することへの意識の向上が見られる。生徒会の活動も徐々に活発になってきている。</p> <p>進路意識を高める取組みの成果は見られたが、自身の進路実現に十分に向き合いきれない生徒もいることから、今後も自分を見つめ進路に向き合う姿勢を持たせる取組みを継続し、一人ひとりにあった進路指導を展開していく必要がある。</p> <p>令和4年度から導入される新学習指導要領に対応する魅力ある教育課程作成に向け、内容を十分に吟味し、生徒へのよりよい教育の提供に努める。</p>		(1) 主体的に学ぶ意欲を養い、各教科・科目の学習内容の基礎基本を定着させ、着実な学力の向上をめざす。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年・科別のシラバス、評価の観点を示し、学ぶことの大切さを理解させ、基礎学力の定着を図る。 ・ 自己の目標を明確にし、その達成に向けた取組の一貫として資格や検定の受検を奨励する。 				
		(2) 集団や社会の一員としての自覚を高め、自己実現への積極的な態度を育成する。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 人としての生き方やあり方について考えさせ、自己の進路を見つめさせる。 ・ 地域の一員として、挨拶運動や奉仕活動を実施する。 				
		(3) 生徒と心の通う人間関係を築き、基本的生活習慣や自己管理能力を培う。		<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールやマナーを身に付けさせ、規範意識の向上を図る。 ・ 一人ひとりの生徒が抱える課題を理解し、適切な支援を行う。 				
		(4) 安全教育の充実を図るとともに、安心して学校生活を送ることができるよう環境の整備に努める。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の中の様々な危険を想定させ、安全な行動をとらせることができるようにする。 				
		(5) 職員の勤務状況を的確に把握し、過重な勤務や特定の職員への偏重が少なく、支え合っで職場課題を解決する職場環境を創造し、勤務時間と健康の管理を意識した働き方を推進する。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の日常を観察するとともに面談を必要に応じて実施し、状況の把握につとめ、職員間で共有することで相互理解を促し、目標達成に資する。 				
評価項目	具体的目標（評価小項目）	具 体 的 方 策 ・ 評 価 指 標		自己評価結果	成 果 と 課 題（ 評 価 結 果 の 分 析 ）		改 善 方 策 等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
学習指導	わかる授業・学力を付ける授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教員が当該教科・科目のシラバスを作成するとともに、これを用いて年度当初に生徒へ学習の目的や学習内容、評価方法を周知する。 ・ 各教員が、当該教科・科目においてその都度、学習内容等を再度周知し確認する。 ・ 機械・ビジネスの専門教科で、シラバスを活用して、指導方法や教材の工夫、学習方法の把握の仕方などについて情報交換を行い、指導力の向上に努める。普通教科間でも同様の取り組みを行う。 ・ 適宜、生徒による授業評価を行い、その結果を授業改善に生かす。 ・ 観点別評価に則した授業内容を研究し、アクティブラーニングを積極的に実践していく。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価の規準、ルーブリック（A、B、Cの規準）の作成等を意識しながら成績を出していただいている。評価規準の明確化や、授業目標の設定のための研修を考えたい。 ・ 発表する授業、生徒が考えや思いを語る授業、書き綴る授業など、アクティブラーニングに関して様々に工夫していただいている。授業評価、改善の様子も含めて、今後、益々教科横断的に意見交流を深めていきたい。 ・ 単元ごと、授業目標ごとに、生徒にその成果を伝えるように努力したい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修をもち、授業目標やルーブリックにおけるA B C段階評価への狙いを意見交流していく。 ・ アクティブラーニングの狙いと成果の意見交流をしていく。 ・ 単元別、到達度別に生徒の思いをくみ取り、教材の作成に役立てる。 	<p>情報交換会や普段の教員間での情報交換により、生徒の状況把握に努め、それらを考慮した授業内容や指導方法を工夫することで、向上心をもって学習する生徒が増えつつある。今後もきめ細かい指導に取り組んでいきたい。</p> <p>令和4年度入学生から導入される新学習指導要領に対応した評価方法について、研修等に参加するなど、積極的に情報収集に取り組んだ。今後は具体的な運用について考えていきたい。</p>
	個に応じた指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間考査後の成績を職員間で確認・分析し、情報共有のもと個々の生徒の学習状況を把握・確認する。 ・ 常に学習の必要性を生徒に説明し、成績不振者への指導において、普段の学習が進級や卒業に影響することを自覚させる。 ・ 個々の生徒の興味関心や学習意欲を高めるために、授業では一斉指導とともに、生徒各自の理解度に応じた課題を行時間設けるなど、きめ細かな指導を行う。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間考査後の情報交換会では、有意義な情報交換ができた。また成績のみならず生活面での悩み、問題についても意見交換できる良い機会となった。 ・ 授業では教科担当から具体的な授業目標と内容を説明して、それをもとに細かく丁寧な指導をしていただいた。 ・ 授業や放課後の学習指導をとおして、今なすべき事を説明、啓発していただいている。課題研究や奈良タイムなどでも、主体的な学びが実践されるよう指導を行った。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員間の公式・非公式な対話の中で、生徒の状況や思いをくみ取っていく。 ・ 従来からある会議や意見交流の場での内容の充実、継承をする。 ・ 授業アンケートの益々の充実を図る。 	
	資格・検定の取得に対する積極的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取得可能な資格や検定の情報を広く生徒に提供し、資格取得への関心を高める。 ・ 生徒の実力を考慮しつつ、将来役に立つ資格や検定を絞り込み、資格の取得や検定合格に向け重点的に取組ませる。また、これらの資格検定については、より多くの生徒に受験するように働きかける。 ・ 機械科、ビジネス科で取り組んでいる資格や検定について生徒の段階に応じて教師が呼びかけ、取得意欲を盛り上げていく。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が必要だと感じなければなかなか検定に対して興味関心は生まれないので、将来的に仕事や実生活で役に立つ検定を生徒個々に応じて厳選し、授業の内容、生徒の理解度も踏まえて、今後も啓発を行なっていきたい。それとは別に検定にチャレンジすることにより、学ぶことの楽しさも理解して欲しいと考えている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような知識・技能が必要か、これからの社会で求められている力とは何かを具体的に考えて、検定への啓発を行いたい。 	

生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 欠席・遅刻防止を徹底し、基本的生活習慣の確立を図る。(昨年度の10%減) 挨拶の励行、時間厳守及び自己管理を徹底し規範意識の向上を目指す。 各授業や学校行事等に臨む際の姿勢や態度などにおける基本的なマナーの向上を図る。 交通安全教室及び登下校指導等を通して、通学時の安全確保に努めるとともに、交通マナーの向上を図る。 月1回生徒にプリント(たばこのお話等)を配布し、たばこの害に関する意識を向上させるとともに、薬物乱用防止教室を通して薬物の恐ろしさを認識させる。 個別面談や家庭訪問で把握した生徒の状況について、教職員間での情報共有に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 欠席については少し減少したが遅刻については横這い状態であった。 生徒会との協力で、互いに挨拶する習慣が定着しつつある。(全生徒の約80%) 集会時における姿勢や態度等の基本的なマナーや、通学時の交通マナーにおいても目標をほぼ達成できた。 コロナウイルスの影響により交通安全教室や薬物乱用防止教室を開催できなくて残念である。 家庭訪問により得た生徒の状況等から資料作成し、情報共有を図ることで、共通理解のもとに教職員が生徒を指導できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 4年間の指導を通して学校のルール、時間厳守、挨拶等の社会のきまりをしつかり身に付けさせていきたい。また、授業や学校生活での関わりの中で生徒のわずかな変化も見落とさないよう心がけ、継続した指導に取り組みたいと思う。 	挨拶習慣の定着については生徒会の活動もあって成果が出ている。今後もマナーや規範意識を向上させる取組を期待する。(学校評議員) 様々な活動が制限された環境下であったが、生徒が主体的に活動できる場を可能な限り提供できたことは良かった。次年度も本年度の成果を継承し、生徒の主体性を育む取組を進めていきたい。
	生徒会活動の活性化及び部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員の主体的活動や生徒会行事の活性化を図り、充実した生徒会活動につなげる。 部活動の勧誘を積極的に行い、加入率を昨年度より上回るようにする。(昨年度の10%増) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会本部の打ち合わせをこまめに実施し意志疎通を図った。特に登校時における挨拶運動は他の生徒に良い刺激を与え、徐々にではあるが自主的な挨拶が見られるようになった。(全生徒の約80%) 新型コロナウイルスの影響により様々な大会等が中止となる中、バドミントン部は制約された時間の中で活動を行い全国定通体育大会に出場を果たした。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性や主体性を高めるような生徒会活動や部活動の在り方、魅力についてさらに検討していきたいと思う。 	
人権文化	人権学習LHRの充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の人権感覚を高めるために、人権の視点を大切にしたものを見方を深めるための人権教育HRの充実を図る。 様々なテーマ(「部落問題」「在日外国人問題」「障害者問題」「性的少数者の人権」「感染症に関連しての不当な差別や偏見」等)の人権学習から多様な見方、考え方を身に付けさせ、人権についての知識理解を深める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「生活体験作文・人権作文から学ぶ」というテーマでLHRを行い、卒業生の作文から、定時制高校生としての気づきや思いを共有することができた。 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2学期のLHRを校内生活体験発表会に充てた。 様々な人権学習の機会を設けることが望ましい。 生徒の実態や踏まえた人権講演会講師の人選が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 4年間で学年ごとにテーマを決めて、人権学習計画を立てる。 1学期には作文指導、2学期には人権学習を行う。 人権講演会(教員研修・生徒の人権学習)を立案する。 	生活体験発表会では共に学ぶなかまの様々な思いを共有することができ、生徒の視野を広げることができた。さらに生徒の人権感覚を高められるような取組を進めたい。
	校内生活体験発表会に向けた取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> 過去の発表作文を教材としてLHRを行い、発表者の思いを共有することで体験作文を書くことの手立てとする。 同じ学校で学びあうなかまとして、なかまの思いに共感し、共有することで生徒個々の自尊感情を高め、自己実現への意識を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内生活体験発表会から県大会までの期間が短く、日程的に厳しい。 定時制高校においては重要な学校行事の一つであり、全生徒にとって意味のあるものにならなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末までに校内生活体験発表会を実施できないか模索する。 生徒には、自らの行動や日常生活について常に意識させることが必要である。 	生徒が抱える課題の多様化に対応するため、支援を要する生徒の把握に努めている。さらに生徒理解を深められるように取組を進めていきたい。(学校評議員)
	図書館利用の奨励	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション等により利用の心得や必要な知識を習得させ、読書や教科学習の資料収集など、図書館利用への意欲を喚起させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 定時制生徒が必要時に利用できるように週4日始業前に開館した。考査期間中に自習に利用する生徒もいたが、仕事をしてから登校する生徒も多く利用者数は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書の奨励に努める。 教科との連携を図る。 	
	特別支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する生徒の把握に努め、生徒、保護者、教職員の共通理解のうえ、支援が行えるようにする。 継続的な支援が行えるように体制を整える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する生徒の把握に努め、生徒、保護者、教職員が共通理解の上取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末から新年度初めにかけての中学校訪問など。 	
進路指導	本校卒業後の進路を考えさせる機会づくり	<ul style="list-style-type: none"> 「進路希望調査・キャリアパスポート(全学年)」「自己点検カード(1年)」「進路資料」等を利用して生徒理解に努め、本校卒業後の進路を考えさせる機会づくりを行う。 進路に関する情報資料提供を随時行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすい進路講演会(3回実施)、進路冊子配付(全生徒)、新しく全学年に進路通信(4、5月発行)、進路希望調査(全学年)、自己点検(1年)、キャリアパスポート記入(各学期)、進路LHRでの求人票の見方・社会人のコミュニケーションについて(全学年)、フォークリフト資格講座案内、HP掲載等実施し、本校卒業後の進路を考えさせる機会づくりを行った。 求人一覧表、履歴書見本、進学指定校一覧表その他進路に関する情報資料提供を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方のご意見を伺いながら可能な取組を考え検討実施する。 	4年生の進路の決定に向けて、就職希望者に対する説明会や応募前職場見学、面接指導など、計画的に取り組み、その成果が見られた。全学年を対象に、進路講演会や動画視聴、キャリアパスポートの活用など本校のキャリア教育を充実させた。今後このような取組をとおして、望ましい勤労観や職業観の育成に励んでいただきたい。(学校評議員)
	4年生の進路決定	<ul style="list-style-type: none"> 就職・・・生徒理解に努めながら支援する。(就職相談、企業訪問、応募前職場見学、各関係機関との連携、就職面接試験対策、事務処理等) 進学・・・将来の職業選択に繋がるような指導、情報提供を行う。(進学相談、学校訪問、学校案内・募集要項の取り寄せ、学校見学・体験の紹介、指定校受付案内、入試対策、事務処理等) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 就職講習会(マナー講習会含む)、就職・進学相談(7月三者懇談中)、応募前職場見学(1人複数社)、面接練習、求人票受付や応募書類の事務手続きなど行った。生徒・担任から要望を充分聞き、生徒が探せていない求人票等の紹介をした。個々の生徒にあった情報提供により、就職先が決定した生徒は内定先に全員満足している。 進学受験がうまくいかなかった生徒にも別ルートを紹介し要望通りの解決ができた。 事前指導や相談に来ない進路未決定者が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前指導や相談に来ない進路未決定者について、進路指導部・第4学年等で情報共有し進路先決定に適切に見学等への教員対応ができるよう応援をお願いしたい。 	

	各種奨学金の案内・申請等の事務処理	・「奈良県高等学校等奨学金」「奈良県高校生等奨学金給付金」「日本学生支援機構奨学金（給付・貸与）」「石澤奨学金」などの案内・申請等の事務処理を適切に行う。	A	・各種奨学金の案内・申請等の事務処理を適切に行った。「奈良県高校生等奨学金給付金」22名、「奈良県高等学校等奨学金継続」、「日本学生支援機構奨学金貸与」、「石澤奨学金給付」、「教育公務員弘済会給付奨学生」が採用された。	・奨学金制度の追加・変更等について、適時生徒に連絡していかなければならない。	
環境 保健体育	体力の向上	・スポーツテストを通じて、生徒の運動能力を把握し、課題を明確にするとともに、年齢層に応じた体力の向上の取組みを行い、運動への興味・関心を高める。	B	・今年度は一年ぶりにスポーツテストを実施した。一昨年の参加率は97%であり、生徒一人ひとりの能力を参考にして体力強化を試みた。各個人差はあるものの体力強化の成果が出た。	・各生徒の運動能力は把握でき、縄跳び・ラジオ体操・筋力トレーニングの成果が上がった。	スポーツテストにより、客観的に生徒の運動能力を把握し、体育の授業を能力向上に効果的な内容で実施できたことは良かった。
	健康保持増進と安全教育の充実	・定期健康診断や各種検診を計画的に実施し、生徒個人の健康状態を把握し各検診の受診率90%以上を目指す。家庭との連携を密にして受診勧告書の回収率の増加（昨年比）を目指す。 ・防災教育を充実させ、実践的な避難訓練を行い、自分自身の身の守り方等の意識付けを行う。	A B	・生徒の定期健康診断平均受診率の数値目標は前年と同じく90%以上を目指したが86.5%にとどまった。これは不登校の生徒や仕事で遅刻傾向の生徒が受診に間にあわなかったことが影響したと思われる。 ・手洗い・消毒・換気に関しては意識付けがある程度できた。同じことの繰り返しになるが、引き続き感染対策の指導を重ねる必要がある。 ・避難訓練については有意義な実践型の訓練ができた。今後もさらに工夫する必要がある。	・受診勧告書を保護者に渡し受診を勧めるとともに健康管理の重要性を促す指導を行う。（コロナ対応を含む） ・防災教育を充実させ自身の身の守り方の意識付けを行う。	次年度は、生徒の健康に対する意識を向上させ、健康診断の受診率を高められるよう取り組みたい。
	環境整備と環境美化への意識向上	・随時、施設の安全点検を行い、環境整備に努める。 ・環境美化への意識を高めるため、各HRの環境委員を中心に自主的な清掃活動に取り組ませる。	B	・学校全体の環境美化については、HR等の指導により、教室や廊下のゴミはかなり減少した。その他清掃活動については汚れに気づいた教員が自主的にきれいにするのが望ましい。	・環境整備についてはクラス運営の一環として適宜行うよう指導をする。	防災教育についてはこれまでの取組を継続しつつ、充実させていきたい。
機械科	基礎的、基本的な知識と技能の習得を目指す。ものづくりへの興味・関心の育成とともに各種検定試験への支援を行う。	・座学で学習した内容をしっかりと理解し、その知識を用いて加工する手順や方法を考え、作品をつくり上げる。 ・作業後のレポート作成により実習内容の再確認を行い、学習内容の定着を確実にする。 ・機械科に関する各種検定試験について、放課後及び長期休業期間を利用して支援する。 ・作品製作に重点を置くことにより、完成の喜びを味わわせ、ものづくりの楽しさを認識させる。	B	・実習に取り組む上での安全意識として、実習服・実習帽・安全靴の正しい着用について徹底できた。 ・座学で学習した内容を理解し、その知識を用いて加工手順や加工方法を自ら考えて作業できるようになってきた。 ・資格取得に積極的に取り組み、8名の生徒が取得することができた。 ・昨年度研修を重ねてきた消失模型鑄造法を実習に取り入れ、次年度への課題もあったが概ね興味を持って取り組んでいた。 ・コロナの影響による出席停止など、実習の進捗が合わない生徒が複数出てきた中でも、補習や個別指導によりうまく対応し終了することができた。	・資格取得については、自分の将来を見据えた資格の取得に向けアドバイスできたよう知識を深める。 ・加工進度の違う生徒が複数出たときの安全対応として、応援に入れる教師についても考えておく必要がある。	座学で学んだ知識で自ら考えて作業できるようになってきたことは高く評価できる。また、生徒の興味関心を高めるため、新たな加工法を実習に取り入れたことも良かった。 学んだことが進路選択につながるような指導に取り組みたい。
ビジネス科	基礎基本を定着させるための授業方法の工夫及び各種検定試験（希望者）への継続的な支援 新しい教育課程や評価制度の研修を深める。	・ICTを活用するなどにより、授業展開の工夫改善を行う。 ・授業内容を通して資格取得に興味・関心をもたせ、受験者を増やせるようにする。 ・各種検定試験受験希望者に対して、放課後の補習や部活動を通じて継続的な支援を行う。 ・教育課程や評価について、教員間の情報交換を年間2回以上行う。	B	・インターネットを利用し、課題作成のための情報収集を行い、作品に生かすことが出来た。また、授業展開において、視覚に訴えることで、理解がしやすくなるように工夫出来た。新たに取り組み始めた科目では、十分に成果を上げるまでには至っていない。 ・各科目の教育目的に適した、資格試験を受験出来るようにするとともに、昨年度より幅広い資格受験に対応できるようにしたが、受験する生徒を大幅に増加させることは、出来なかった。 ・部活動や個別の指導などで、生徒の意欲を高め、資格試験に合格する生徒を増やすことが出来た。 ・新しい評価方法についての意見交換や関連資料の配布などが出来た。	・各科目で、ICTが生かせるように、各教員の取り組みなどを共有していき、教員間の情報技術の向上に努めたい。 ・従来の資格だけでなく、幅広い資格取得に向け、生徒に対して資格の有用性や必要性を考えさせるようにし、継続して学習の支援に努める。 ・評価方法についての共通理解を深めるために、より研鑽をつめるようにしていきたい。	ICTを活用した授業に力を入れていただいている。次年度BYODが実施されるにあたり、他の教科を牽引し、生徒の端末が有効に活用されるよう取り組みたい。 評価方法については他の教科とも連携しながら、取り組んでいきたい。
第1学年	定時制高校の生徒としての基本的な生活習慣を身に付けさせる。	・自己点検シートの記入により自己理解(学習面・生活面)をさせる。 ・年度当初の個人面談、家庭訪問、中学校訪問等により、積極的に生徒理解に努め、さまざまな場が学習の機会であることに気付かせる。	B	・多様な生徒が入学してきているが、個々に応じた指導を重ね、少しずつ定時制生活に馴染んできている。 ・保護者との連携を密にし、家庭環境や個々の生徒理解を深めている。	・挨拶を交わすなど、個々の生徒と関わる機会を増やし、生徒理解を深める。	家庭との連携を図りながら、生徒に対しきめ細かく対応していただくことで落ち着いた学校生活を送れている。今後もさらに成長できるように指導していきたい。

第2学年	<p>基本的生活習慣の確立</p> <p>学習意欲の向上</p> <p>学校生活の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活と仕事を両立させ、欠席・遅刻を減らすよう指導する。 ・挨拶の励行やマナーの向上について継続的に指導する。 ・基礎学力を定着させるため、きめ細かい指導を行う。 ・専門学科の特色を活かし、実習、技能講座、検定試験等に積極的に取り組むよう指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、生徒会活動、部活動等に積極的に取り組むよう指導する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・HRの状況に応じた適切な指導を行い、少しずつであるが、学校生活に前向きに取り組めるようになってきている。 ・資格試験等を意欲的に受験する生徒もいたが、より資格取得に励めるようにしていきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況により、集団での取り組みが出来ない状況であったが、その中でも、HRでの取り組みにより、行事や活動に積極的に取り組む生徒が生まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路について意識付けを行うとともに、学習や学校行事・資格取得等に積極的に取り組み、よりよい学校生活を過ごす必要性を考えさせるようにしていく。 	<p>生徒会長を輩出するなど、積極的に学校生活を送ろうとする生徒が育ってきている。今後は進路を視野に入れた指導を充実させたい。</p>
第3学年	<p>基本的生活習慣や自己管理能力を身につけているか点検させる。</p> <p>進路目標を設定させ、最終学年に繋がるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の実現に向けて、社会人として必要な基本的生活習慣、マナー、モラルの定着を目指す。 ・生徒一人ひとりに将来の目標をしっかりと見つめさせ、具体的な進路選択が可能となるように支援する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制高校での生活にも慣れ、全体的には落ち着いた生活を送れるようになった。 ・卒業後を見据え、新しく仕事に就いた者がいる。 ・新型コロナの県内感染拡大により学校生活にも影響が及んでいるが、これにより、生徒達が学び得た点も少なからずあるといえる。 ・学年全体(集会等)での指導は、内容によっては必要である。但しHRの状況や生徒個々が持っている問題など、注意を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての心構えを徹底させる。 ・卒業後の進路については進路指導部と協力して、生徒自身が置かれている状況や各自の適正について考えさせ、具体化させる。 	<p>場面に応じた行動が取れる生徒が増えてくるとともに、卒業後の進路選択について考える生徒も出てきている。全員が希望の進路を獲得できるよう、指導を継続させたい。</p>
第4学年	<p>生徒一人ひとりの自己実現をめざして進路指導の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒各自が自己の将来設計ができるように、日頃の面談や保護者との相談を密に行うことで適切なアドバイスを行う。 ・就職や進学試験対策に必要とされる基礎学力や面接対策等のきめ細かな指導を行う。 ・社会人として必要とされるマナーやモラルの指導の充実を図る。 ・就職や進学に関する情報を収集し、HR活動や面談を通じて生徒に知らせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望を聞きながら、進路指導部と協働し、「キャリアパスポート」や「進路希望調査」を活用し、ホームルームの時間等で進路決定への働きかけを行い、就職試験合格に向け指導した。 ・採用試験に向けて先生方の協力を得ながら面接指導を実施した。 ・進路指導部主催の外部講師による「就職に役立つマナー講座」や「ことばとマナー」講習を実施した。 ・指定校求人や合同説明会の情報提供、また、応募前見学への参加を促すことで進路実現への意識付けを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて、面談を早期より実施し、受験への意識付けと基礎学力育成のための働きかけを行う。 ・進路選択に必要となる、企業や学校の情報をICTなどを活用して集め研究させる。 	<p>求人情報を積極的に提示したり、徹底した面接指導を実施したり、きめ細かな取組の結果、就職希望者の多くが1社目で内定をいただいた。この成果を次年度以降にも引き継いでいきたい。</p>